

# 木々を結ぶ流路

～公園と神宮をつなぐ歩道橋～

日本大学工学部：大谷地陽人・新田太一・小熊康太・前田泰佑



## コンセプト

開成山大神宮と開成山公園をつなぎ、「木々と人の調和」をテーマとした新たな歩道橋を提案する。

題材の流路とは、歴史とともに物事が変化する上で、新たな方向へ導く路といった意味合いを持つ。そこで、木材を主な材料とし、水の流れを彷彿とさせる2本の曲線を交差させるデザインとした。水引を行ったとされる開成山大神宮と開成山公園に挟まれた緑ある土地を介し、自然を引き込み人の動線が交差する心地の良い空間を考えた。



## 1 敷地情報



開成山大神宮

御鎮座地開成山は、「水と緑のきらめく未来都市」として躍進する郡山市の中央に位置し、深い緑におおわれた神苑が広大な桜の名所開成山公園を前景とし、周囲には郡山市庁舎・総合体育館・郡山女子大学・開成館と記念館がそれぞれ偉容を誇り、行政・文化・教育の中心として点在する。



安積疎水開削の様子

開成山公園は、1972年に灌漑用の池として造成された五十鈴湖を中心に都市公園として整備され、郡山市民のシンボル的な公園として、多くの市民に親しまれている。また、安積開拓の発祥の地として「開拓者の群像」が平成3年に建設され、憩いのバラ園、美しい桜のトンネルを名所とした、様々なイベントが行われている。

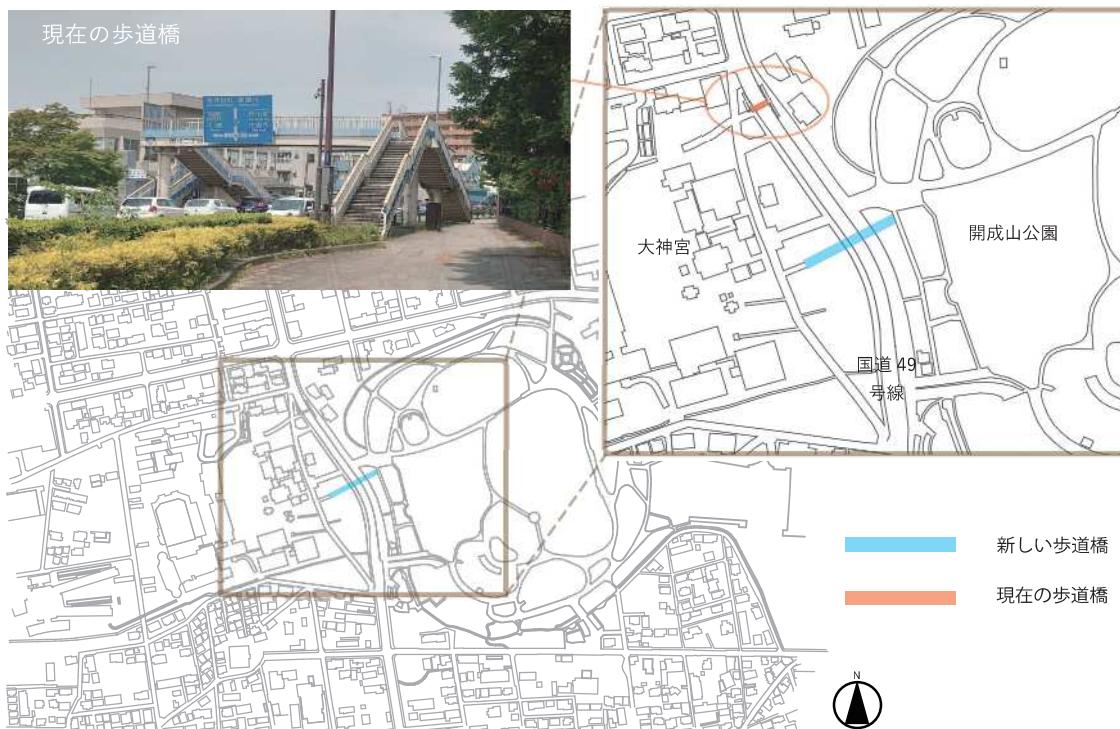
## 2 選定理由・敷地配置図

### ・歩道橋敷設位置の変更

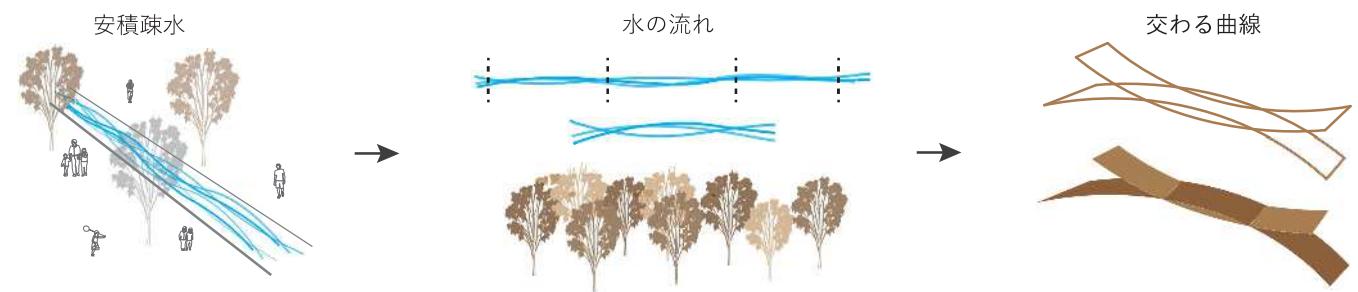
現在ある歩道橋は交差点付近に設置されており、街の人々は交差点の横断歩道を渡るため歩道橋を利用する事が少ない。また、老朽化が進み、街の景観上も阻害しており建て替えが望まれる。

### ・敷地の選定

神社、公園共に年間行事を始めとしたイベントなどが行われており、地域コミュニティの発展に大きく貢献している。今後、様々な行事や店舗が設置され、更に人の往来が増加する事が考えられる。そこで、神社と公園の賑わいを共有し更なる繋がりの拡大を考え、対象地を選定した。



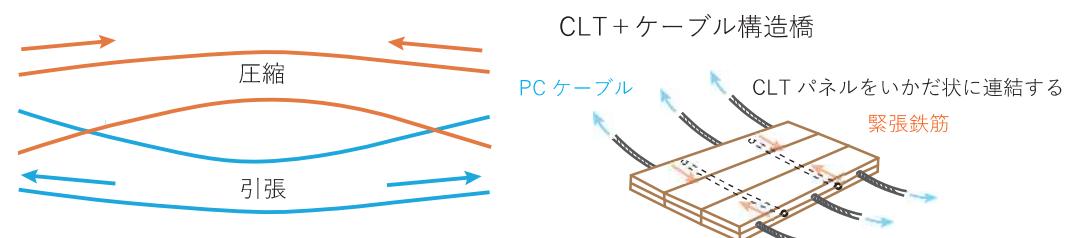
## 3 デザインの抽出



## 4 構造デザイン

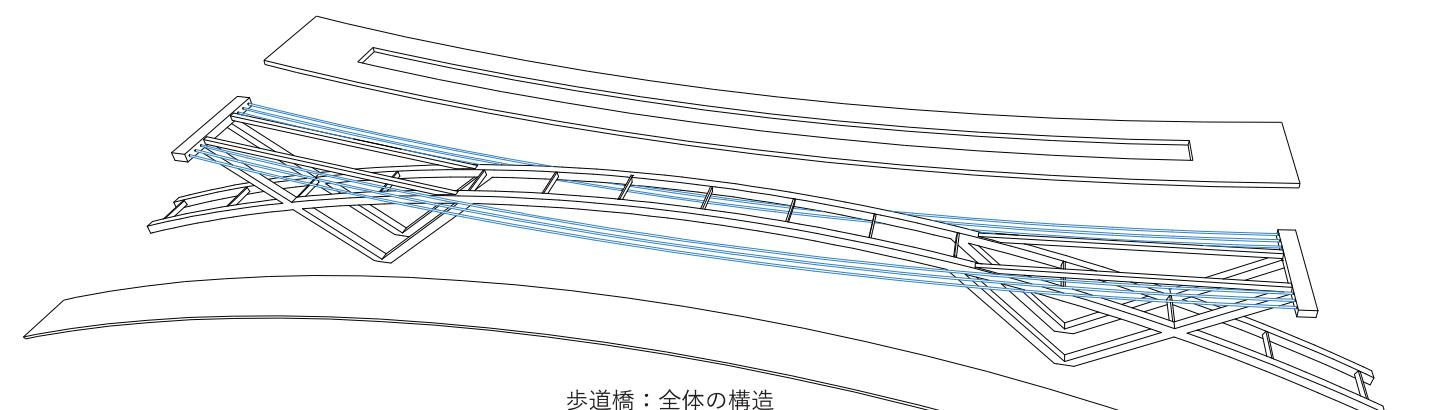


ドイツのエルベ橋

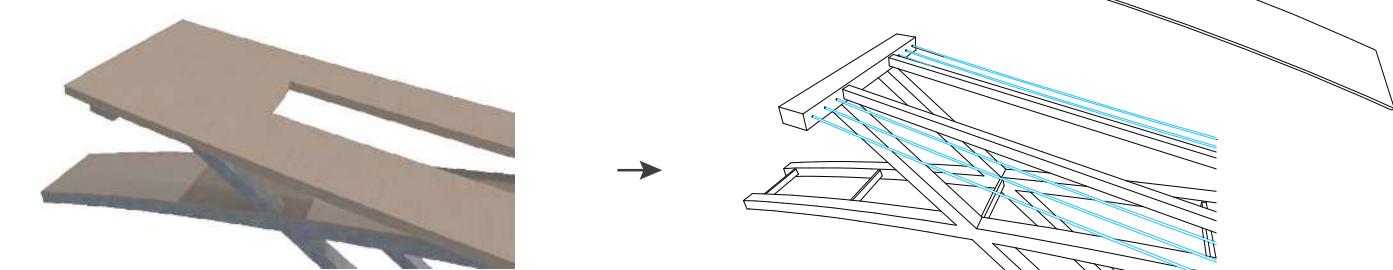


平面図 S=1:400

### ・構造 3D モデル



歩道橋：全体の構造



歩道橋：梁端部の構造